

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここなくらぶ中百舌鳥		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和7年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日		～ 令和7年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	決して目立つことではないが、何度も繰り返すことで身につく力を大事にしている	基本的な生活習慣の確立のため、挨拶、持ち物管理というあたりまえのことを徹底している	丁寧に関わること、保護者と子どもの状況を共有し、今何を課題とするか明確にし、基本的な生活習慣の確立を目指す
2	日常生活における生活動作の確立	挨拶や持ち物管理、排泄の自立、自分の思いを相手に伝える、自分以外の他者に気づき一緒に過ごす等の何度も繰り返すことで身につく力を大事にしているため、余裕のまったスケジュールにしている	卒業後の自立にとって必要な部分のため、事業所だけでなく法人全体で事例の共有をしていく
3	達成感・情緒・協調性・感覚の刺激	制作活動を通じて、道具の正しい使用方法の習得や、様々な素材や質感を感じることで感覚を刺激 個別活動はもちろん小集団で進めることにより他者を意識して人間関係につながるようになっている	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1			
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ここなくらぶ中百舌島

公表日 年月日

利用児童数 17

回収数 14

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13			1	子どもの活動中に見学をしたことがないのでわからない	子どもたちの活動中はなかなか難しいが、見学できるよう検討していきたい
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1		1	子どもの活動中に見学をしたことがないのでわからない	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13			1	子どもの活動中に見学をしたことがないのでわからない	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	13			1	子どもの活動中に見学をしたことがないのでわからない	
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	1				同じような活動が被らないよう配慮しているが、変化もつけていきたい
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		1	3	10	今のところ機会はない	交流会等してみたいが、時間的余裕を作ることが出来ていないのが現状 今後の検討課題にしたい
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	3	3	4	研修会はないです	研修会を行ったことはあるが、平日の午前中ということもあり参加が難しいため情報共有出来るものを考える
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	14					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			7	7	交流イベントはいまのところ聞いたことはない	保護者交流についても、就労等の理由により参加が難しいので、きょうだいの活動参加を検討したい
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13			1	細かくモニタリングしてくれている	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12	2				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	2		2	保護者には・・・？	保護者への周知が完全ではないためまとめたものをお渡ししたい
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	2		2		引き続き、訓練の予定はおたよりにより案内し、実施後伝達する
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11			3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12			2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14				楽しく活動してくれています	
	29	事業所の支援に満足していますか。	13	1				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ここなくらぶ中百舌鳥				公表日	年 月 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		十分な広さがあるので、静かにする場所と動きのある行動をしてもいいところを分けている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		送迎について、出来るだけ長い時間車に乗ることがないようにしている	余裕のある人員配置を考えているがなかなかいい人材に出会えていない	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			明るく、ワンフロアで見通しもいいため子どもたちの動きが見やすい利点を活かして安全に過ごしたい	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		子どもたちが帰宅した後、丁寧に掃除を行い、感染症対策も含め、消毒を徹底している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		完全に一人になることが出来る部屋が一部屋しかないので、時間等でくぎっている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5			軸となる基本が確定したので、見なおしを行う必要あり	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎年保護者に協力いただきありがたく感じている		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			外部研修への案内を行うが、なかなか参加出来ていないのが実情。シフト調整を行っていく。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			一人一人の保護者への周知が徹底されていないため、懇談時等に案内をすすめる	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		業務改善のため、支援計画等一部、電子化したこともあり、共有しやすくなっている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		個々の発達にあわせ、すべての項目を網羅することは難しいが、保護者等の意向や本人の現状を把握しながら支援内容を設定している		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5		一人が抱え込まないよう、大まかな流れは全員で決めている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	16にあるよう、個々に合わせた支援内容にしている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	朝礼を毎日行い、支援内容、業務分担、当日の利用児童の注意点を再確認している前日からの引継も併せて行う	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	当日の子どもの様子を振り返り、翌日への引継項目もまとめている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	終礼で確認した内容及び、詳細を毎日日報にまとめ情報集約を行っている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	毎月の子どもの状況をまとめたものを書面で報告し、必要に応じて見直しを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	自分で決めることを大事にしているので子どもたちの発達に合わせて選ぶ行動を取り入れている	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	保護者を通じてになるが、確認できている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	必要がある場合のみ連絡をとっている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	卒業前に開催される担当者会議には必ず参加し、引継を行っている 必要に応じて、在学中に見学等を行っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		交流会を行うにはまだまだ事業所として成長する必要がある
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	翌日の利用確認時、当日の帰宅時に長時間は難しいが、時間を取り話をしている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		家庭に対する支援を行うことができる スタッフを育てる必要あり ご家庭が参加できる研修への案内を行う
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	支援計画見直しは半年毎に必ず行っており、保護者の予定に合わせた時間や場所で話をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	保護者との面談後（アセスメント・意向確認）原案を作成し、会議を行ったうえで保護者への説明、交付を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	支援に関すること、家庭、学校に関することなど、都度対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		5		保護者会を計画中ではあるが、時間等を考えると難しい状態。 きょうだい参加のイベントは開催を考えたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情や申し入れについては、的確に聞き取りを行い、一人で判断するのではなく、代表含めたうえで全員で協議している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		HP、SNSの使用のみではなく、児童の様子や翌月の予定やお知らせを毎月紙面で直接渡している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		鍵付き書庫に保管し、児童の氏名や写真の使用については3段階に分けて了承を得ている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		いつでも手に取れる場所に置き、焦ることがないようにしている。	保護者への周知を都度行っているが、完全ではないので再度周知する。 保護者とも実際に連絡訓練を行う必要あり
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		いつでも手に取れる場所に設置している。避難訓練場所や避難所、避難経路の確認、動画を使用した学習を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		変化に関係なく、年1回アセスメントシートの更新を行い、状況確認を行い、通院時の詳細を聞き取るようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		5		保護者への伝達が未達のため案内を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		定期的に行い、スタッフ同士が話をしやすい状態を作っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		該当児童はいないが、必要になった場合に備え、手順の確認を行っている。		